

AudioComm®

取扱説明書 保証書付

再生スピード調整機能／マイク付 CDラジオカセットレコーダー

型番：RCD-P418K-S



このたびは、AudioComm® CDラジオカセットレコーダーをお買い上げいただき
誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。
“この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にご使用ください。” また、お読みになった後も、
ご使用時にいつでも見られるよう大切に保管してください。

目次

免責事項	2
安全上のご注意	2~4
電源について	5
ご使用になる前に (CDについて)	6
ご使用になる前に (カセットテープについて)	7
ヘッドホンの使い方	7
各部の名称	8
CDを聴く	9~11
ラジオを聴く	12
カセットテープを聴く	13~14
CDからカセットテープに録音する	15
ラジオ放送をカセットテープに録音する	16
周囲の音をカセットテープに録音する	17
マイクを使う	18
マイクを使ってカラオケと歌を録音する	19
外部機器を接続してスピーカーとして使う	20
主な仕様	20
故障かなと思ったら	21
お手入れのしかた	22
保証書とアフターサービスについて	22
保証書	裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間および経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果および利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



危険

この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例



△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は感電注意が描かれています。)



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。(左図の場合は分解禁止が描かれています。)



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。)

⚠ 警告

  異常の時はコンセントから抜く	万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。	 接触禁止  感電に注意	雷が鳴り始めたら、安全のため本機および電源コードに触れない
  水が入った時はコンセントから抜く	万一、内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店にご連絡ください。	 禁止	表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない ●火災・感電の原因となります。
  異物が入った時はコンセントから抜く	万一、内部に異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店にご連絡ください。	 電池に注意	乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が誤って飲み込むことがないようにする ●万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。
 分解禁止	本機を分解、修理、改造しない ●火災・感電の原因となります。	 禁止	本機や電源コードの上に重いものをのせたり、コードの上に本機をのせない ●コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
 禁止	この機器を使用できるのは日本国内のみ。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災の原因となります。	 禁止	コードを敷物などで覆わない ●気づかず重いものをのせてしまい、火災・感電の原因となります。
 コードを交換する	電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●修理をご依頼ください。	 禁止	本製品を使用時は必ず付属の電源コード(ACコード)を使う。 また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しない ●付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。 ●製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
 水かけ禁止	浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しない ●火災や感電の危険があります。	 禁止	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●コードが破損して火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

 禁止	調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。	 禁止	CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まない  ●レーザー光が目当たると視力障害を起こすことがあります。
 禁止	ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	 禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電の原因となることがあります。
 禁止	電源コードを熱器具に近づけない ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	 禁止	電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らない ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。
 禁止	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。	 アンテナに注意	持ち運びする時は、アンテナを折り畳む ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどしてけがの原因になることがあります。
 禁止	湿気やほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。	 コンセントから抜く	移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
 音量は小さく	電源を入れる前には、音量を最小にする ●突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。	 指を挟まれないように注意	お子様がカセットテープ挿入口やCDドア内に手を入れないように注意する ●けがの原因となることがあります。
 乾電池の電極性に注意	乾電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示通り正しく入れる ●間違えると電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	 音量に注意	ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない ●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
 禁止	指定以外の乾電池は使用しない。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	 コンセントから抜く	旅行などで長時間本機を使わない時は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す ●火災・液もれの原因となることがあります。
 コンセントから抜く	お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜く ●感電の原因となることがあります。	 禁止	電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニター等)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。

電源について



電源コードを抜き差ししたり、電池を出し入れする時は、電源が切れた状態で行ってください。



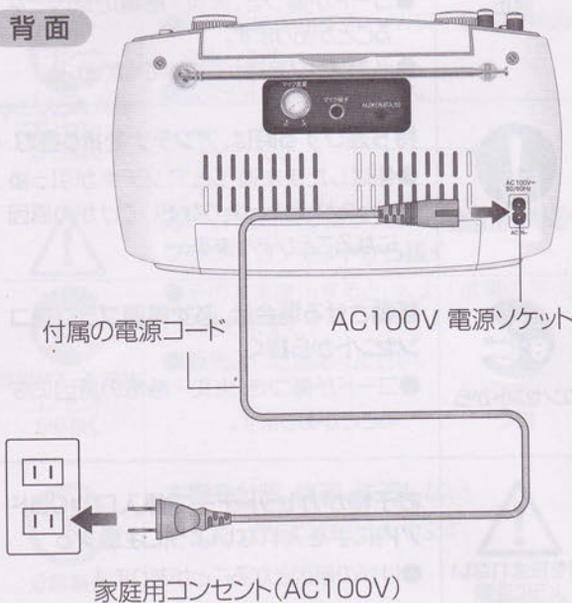
電源を入れる前には音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本体のAC100V用電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

- ◆乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。
- ◆本機を使用しない時は電源コードをコンセントから外してください。

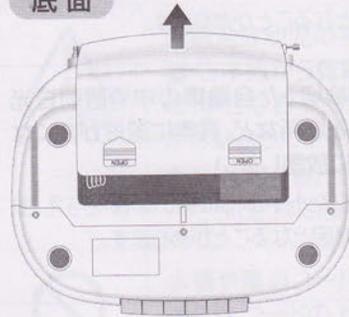
背面



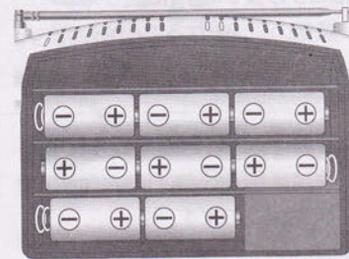
乾電池で使う場合

- ◆アルカリ乾電池のご使用をお勧めします。
 - ◆電池カバーを外し、乾電池の⊕と⊖を間違えないように、単2形乾電池8本を入れます。
- ※長時間使用する時や大切な録音をする時は、付属の電源コードを使用してください。

底面



- 本体底面の電池カバーの「OPEN」部を押し下げながらスライドさせ、電池カバーを開けてください。



- 乾電池の向きを図のように正しく入れてください。コイルばねのあるほうが⊖側です。
- 入れ終わったら電池カバーを元通りにしっかり閉めます。

単2形乾電池8本使用(別売)

※付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード(ACコード)をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。



警告

- ・火中への投入、加熱、分解をしない
- ・ショートさせない



注意

- ・⊕⊖の表示通りに入れる
- ・指定以外の乾電池を入れない
- ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない
- ・使い切った乾電池はすぐに取り出す
- ・しばらく使わない時は乾電池を取り外しておく

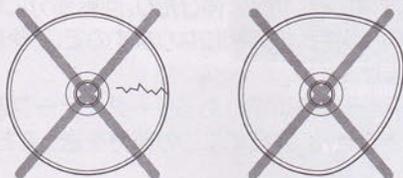
- 万一液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。
- 万一、もれた液が目に入った時は、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。
- 使用済みの乾電池を廃棄する時、自治体の条例などで決まりがある場合にはそれに従って廃棄してください。

ご使用になる前に(CDについて)

結露について

寒いところから急に暖かいところへ移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態で使用すると、正しく動作しないことがあります。このような時はディスクを取り出して数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ディスク使用上の注意点



◆再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびやそりのあるディスク、割れたり変形したディスク、テープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使わないでください。

◆ディスクに

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO



のマークが入ったものをご使用ください。

◆現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたっては、動作や音質の保証は致しかねます。

音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。

なお「コピーコントロールCD」の詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



コピーコントロールCD

コピーコントロールCDのマーク

◆本機はCD-R / CD-RWの再生に対応していますが、以下の点をご注意ください。

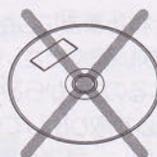
- ・CD-R / CD-RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類・状態によっては、再生できなかったり、ノイズや音飛びが生じる場合があります。
- ・ファイナライズ処理がなされていないディスクは再生できません。
- ・本機ではMP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。

ディスク取扱上の注意

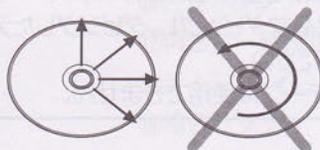
◆再生面に触れないように持ってください。



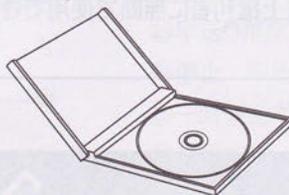
◆再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



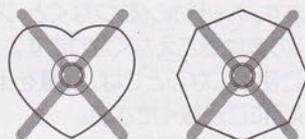
◆ディスクに指紋や汚れがついた時は、柔らかい布などで放射状に軽く拭き取ってください。



◆長い時間使用しない時は、ディスクを本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



◆ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは、使用しないでください。機器の故障の原因となります。



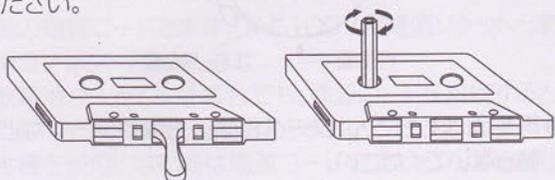
音声多重CDについて

本機では、ステレオ録音された左右いずれかのチャンネルを選んで、音声多重CD(CD-G)の再生ができます。ただし、画像の出力はできません。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

カセットテープの取扱上の注意点

- ◆テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。
- ◆テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。



- ◆カセットテープを入れたままにしたり、再生/録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からみや巻きつきの原因となります。テープは必ず取り出して保管してください。
- ◆テープ動作中の巻戻し・早送り操作は、テープ巻きつきの原因となることがあります。必ず停止させてから巻戻し・早送りの操作を行ってください。
- ◆テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。
- ◆エンドレステープは使用できません。

著作権について

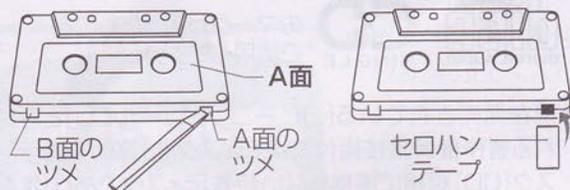
あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

録音時の注意点

- ◆ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押ししたりすると故障する場合がありますのでご注意ください。
- ◆ノーマルテープ(TypeI)をお使いください。ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)には録音できません。また、ノーマルテープについてもC-60(60分テープ)までのテープを使用してください。C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれる等のトラブルの原因になりますので、ご使用はお薦めできません。
- ◆カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分は録音ができません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違えて大切な録音を消去せずすみませす。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。

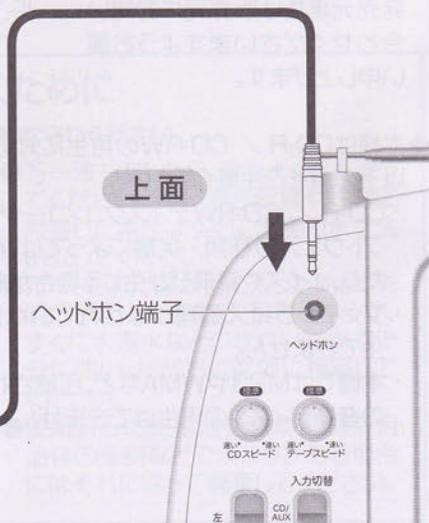


間違えて消したくない時はツメを折る

再度録音したい場合はテープで折った穴をふさぐ

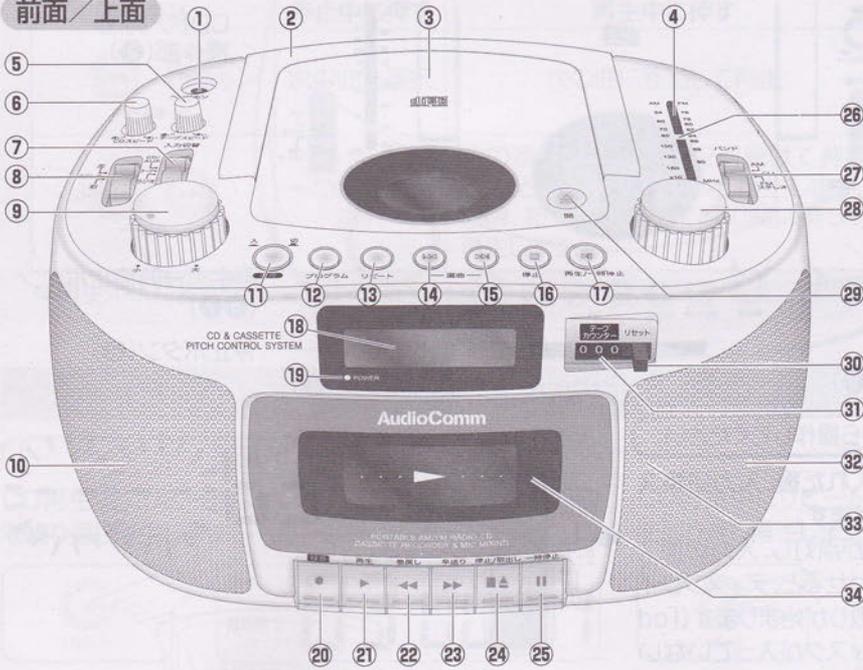
ヘッドホンの使い方

- 別売のステレオヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)を本機上面のヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- 家庭用コンセントでご使用时、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聞こえる「ブーン」という音)が耳障りになる時があります。その場合は、乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。



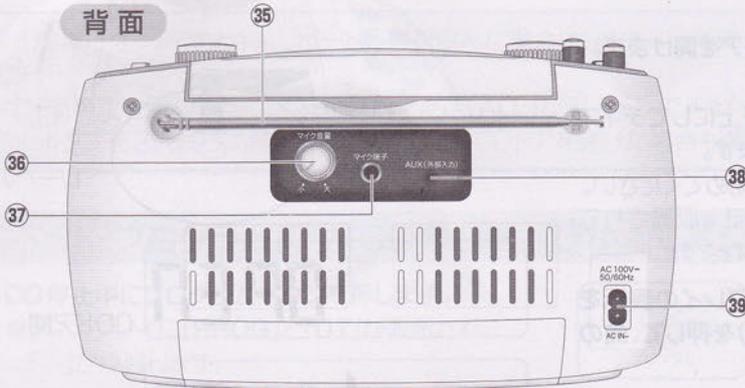
各部の名称

前面/上面

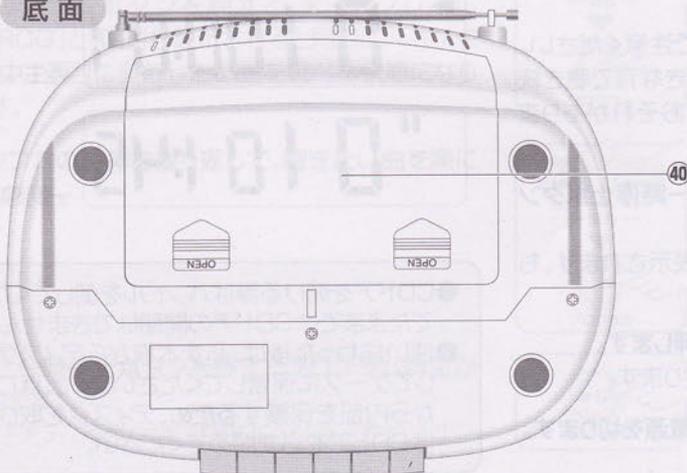


- ①ヘッドホン端子
- ②ハンドル
- ③CDドア
- ④選局目盛り
- ⑤テープスピード調整ツマミ
- ⑥CDスピード調整ツマミ
- ⑦入力切換スイッチ
- ⑧音声出力切換スイッチ
- ⑨音量ツマミ
- ⑩左スピーカー
- ⑪電源ボタン
- ⑫プログラムボタン
- ⑬リピートボタン
- ⑭選曲ボタン(◀◀)
- ⑮選曲ボタン(▶▶)
- ⑯停止ボタン
- ⑰再生/一時停止ボタン
- ⑱ディスプレイ
- ⑲電源ランプ
- ⑳録音ボタン
- ㉑再生ボタン
- ㉒巻戻しボタン
- ㉓早送りボタン
- ㉔停止/取出しボタン
- ㉕一時停止ボタン
- ㉖選局指針
- ㉗バンド切換スイッチ
- ㉘選局ツマミ
- ㉙CDドア開閉操作部
- ㉚テープカウンターリセットボタン
- ㉛テープカウンター
- ㉜右スピーカー
- ㉝録音用マイク(内蔵)
- ㉞カセットドア
- ㉟FMロッドアンテナ
- ㊱マイク音量ツマミ
- ㊲マイク端子
- ㊳AUX(外部入力)端子
- ㊴AC100V電源ソケット
- ㊵電池カバー

背面

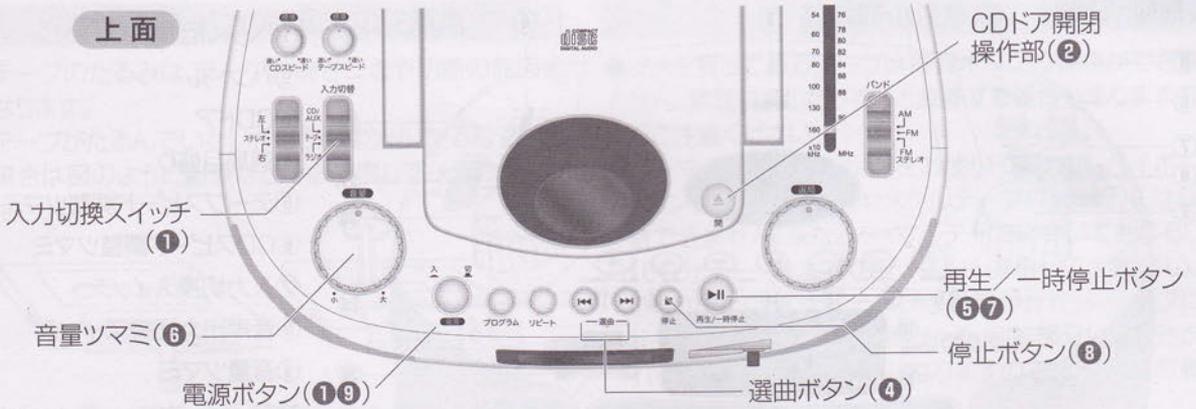


底面



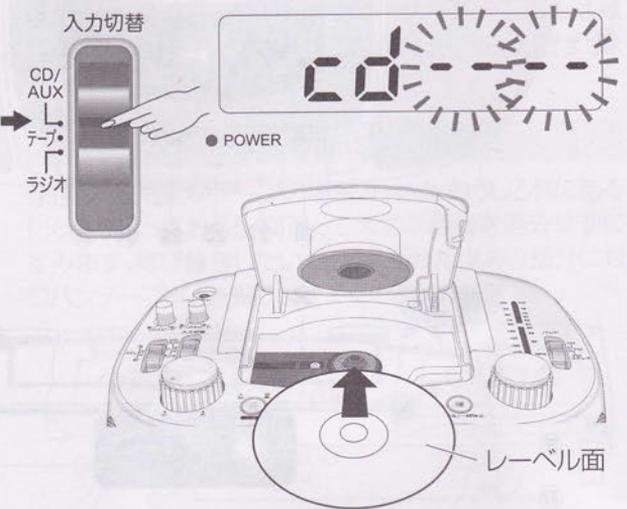
CDを聴く

上面



電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切替スイッチをCD / AUXに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯し、入力切替スイッチをCD / AUXに合わせると、ディスプレイが点灯してディスクの読み取りが始まります。「cd ---」がしばらく点滅し、ディスクが入っていない場合は、「DISC」が点滅します。
- 2 CDドア開閉操作部を押して、CDドアを開けます。
- 3 レーベル面(印刷されている面)を上にしてディスクを正しくセットし、CDドアを閉めます。
※カチッと音がするまで、しっかりと閉めてください。
※CDドアを閉めるとディスクが回転し、収録されている曲数がディスプレイに表示されます。
- 4 [再生したい曲を選ぶ場合]ディスプレイの表示を確認しながら選曲ボタン(◀/▶)を押して、曲の番号を選びます。
- 5 再生を始めるには、再生/一時停止ボタンを押します。
※再生中は再生マーク(▶)が点灯します。
- 6 音量ツマミで音量を調節します。
※音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、大きな音で聴き続けると聴覚に悪い影響を及ぼすおそれがあります。
- 7 再生を一時停止する時は、再生/一時停止ボタンを押します。
※この時、一時停止マーク(⏸)が表示されます。もう一度押しすと再開します。
- 8 再生を停止する時は停止ボタンを押します。
※ディスプレイは収録曲数表示に戻ります。
- 9 終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります。
※電源ランプが消灯します。



- CDドアを開ける際はハンドルを倒してください。立てたままではCDドアの開閉はできません。
- 使い終わった後は、必ず本機からディスクを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、ディスクを取り出した後はCDドアを必ず閉めてください。

選曲ボタン(◀▶)について

停止中、再生中、再生中の長押しといったそれぞれの状態に応じて、機能が異なります。

ボタン	停止中に押す	再生中に押す	再生中に長押しする
 —選曲—	次の曲を選択	次の曲に移動して再生	聴いている曲が早送りされます。指を離れた時点から再生を再開します。
 —選曲—	一つ前の曲を選択	曲の頭に戻って再生。2回続けて押すと、ひとつ前の曲に戻って再生します。以降、押すごとに順次前の曲に戻って再生します。	聴いている曲が早戻しされます。指を離れた時点から再生を再開します。

※再生中に長押しすると、断片的に再生音が流れますので、お好みのところで指を離してください。

同じ曲を繰り返し聴くには

1曲リピート再生

CD再生中にリピートボタンを1回押すと、聴いている曲を繰り返し再生します。



全曲リピート再生

CD再生中にリピートボタンを2回押すと、CD内の全曲を繰り返し再生します。



- 停止中または一時停止中にリピート再生を選んだ場合は、再生/一時停止ボタンを押すとリピート再生が始まります。
- リピート再生を解除するには、「REP1」または「ALL」が消えるまで、リピートボタンを1回、または2回押します。停止ボタンを2回続けて押した時や、停止後にCDドアを開けた場合も解除されます。

プログラム再生(CDの曲を並びかえて聴く) 最大20曲まで登録できます。

- 1 CD停止中にプログラムボタンを押します。
※ディスプレイに「PROG」と「01」が表示され、「-」が点滅します。



- 2 選曲ボタン(◀▶)を数回押して、1曲目に登録したい曲番号を選び、プログラムボタンを押します。
※プログラムボタンを押すと、ディスプレイに「PROG」と「02」が表示されると同時に「-」が点滅し、2番目に登録したい曲を選べる状態になります。



- 3 ステップ2の操作を繰り返して、聴きたい曲を順に登録します。



- 4 再生/一時停止ボタンを押すとプログラム再生が始まります。
※プログラム再生中は、「PROG」が表示されます。



前ページからのつづき

- プログラム登録操作中に何も操作しない時間が約30秒間続くと、操作が解除されます。また停止ボタンを押した場合も、登録操作が解除されます。
- プログラム再生中に停止ボタンを1回押すと、プログラムを保持したまま再生を停止します。この状態で再生/一時停止ボタンを押すと、プログラムの1曲目から再生を始めます。プログラムの設定自体を解除するには、停止ボタンを2回続けて押してください。他のファンクションに移行した場合も解除されます。
- 全曲リピート再生とプログラム再生を併用すると、登録した曲を繰り返し聴くことができます。

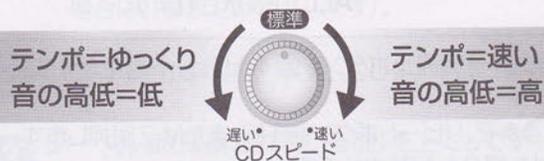
【プログラムを修正するには】

- ・登録操作中にプログラムボタンを押すと、01(曲順番号)に続いて曲番号が点滅します。
 - ・点滅している間にプログラムボタンを数回押して変更したい曲順番号を表示させます。
 - ・選曲ボタン(◀▶)で曲番号を選んでプログラムボタンを押すと、プログラムを修正できます。
- ※プログラム再生開始後に修正する場合は、停止ボタンを1回だけ押した後、プログラムボタンを数回押して変更したい曲順番号を表示させ、選曲ボタン(◀▶)で曲番号を選んでプログラムボタンを押します。
- ※20曲まで登録した後は、1番目の登録に戻り、プログラムボタンを押すたびに曲順番号→曲番号が表示されます。

CD再生スピードの調整について

本機では、CDスピード調整ツマミを使って、CDの再生スピードを調節することができます。

- CDスピード調整ツマミを「速い」の方向に回すと、テンポが速くなり、音の高低も高くなります。
- CDスピード調整ツマミを「遅い」の方向に回すと、テンポがゆっくりになり、音の高低が低くなります。



- 外国語CD教材などの聞き取り練習に便利なほか、カラオケ時のキーコントロールにも使用できます。
- CD再生中に調節すると、回転の変化により音飛びする場合があります。
- テープにCDを録音する場合は、このツマミで調整された音そのまま録音されます。
- 通常は「標準」でご使用ください。また、CD再生を終了する時は、必ず「標準」に戻してください。

音声出力切換スイッチについて

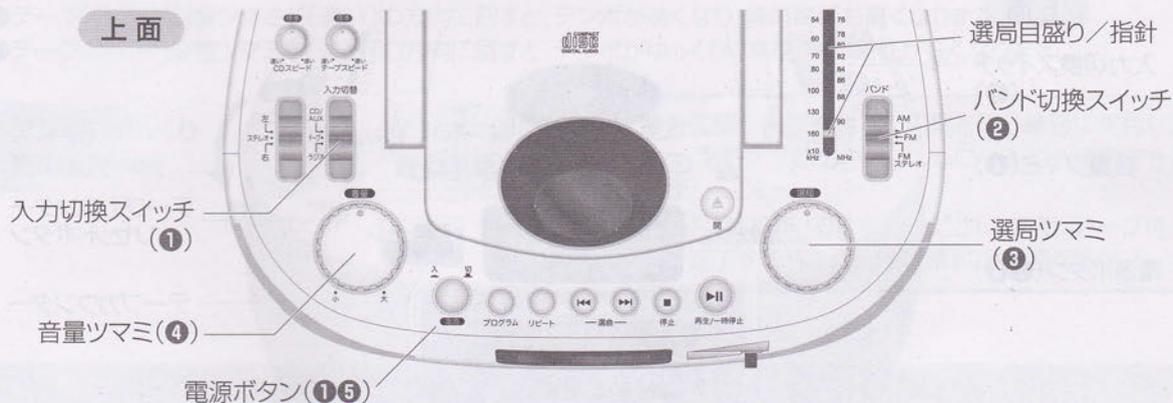
本機では、音声出力切換スイッチを使って、CDの音声出力を切り換えることができます。音声多重CDを再生時に、左右いずれかの音声のみを聴くことができます。

※例えば右チャンネルにはカラオケのみを、左チャンネルにはボーカルとカラオケが録音された音声多重CDの場合は、音声出力切換スイッチを「右」に合わせることで、カラオケのみの再生を楽しむことができます。

※通常のCD再生は「ステレオ」に合わせてください。

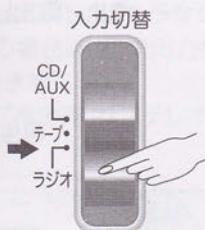


ラジオを聴く



電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 1** 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切換スイッチをラジオに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。



- 2** バンド切換スイッチで、お聴きになりたいバンドを選びます。

バンド切換スイッチで「FMステレオ」を選んだ場合、不安定な電波状況下では聴きづらく感じることがあります。そのような時は「FM」に切り換えると聴きやすくなります。

- 3** 選局ツマミを回して、お聴きになりたい放送局を受信します。
※選局目盛り内の指針を参考にしながら、最も良く聴こえるように調節してください。

- 4** 音量ツマミで音量を調節します。
※音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、大きな音で聴き続けると聴覚に悪い影響を及ぼすおそれがあります。

- 5** ラジオを終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります。
※電源ランプが消灯します。

受信状態をよくするには

●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。

●FM放送の受信

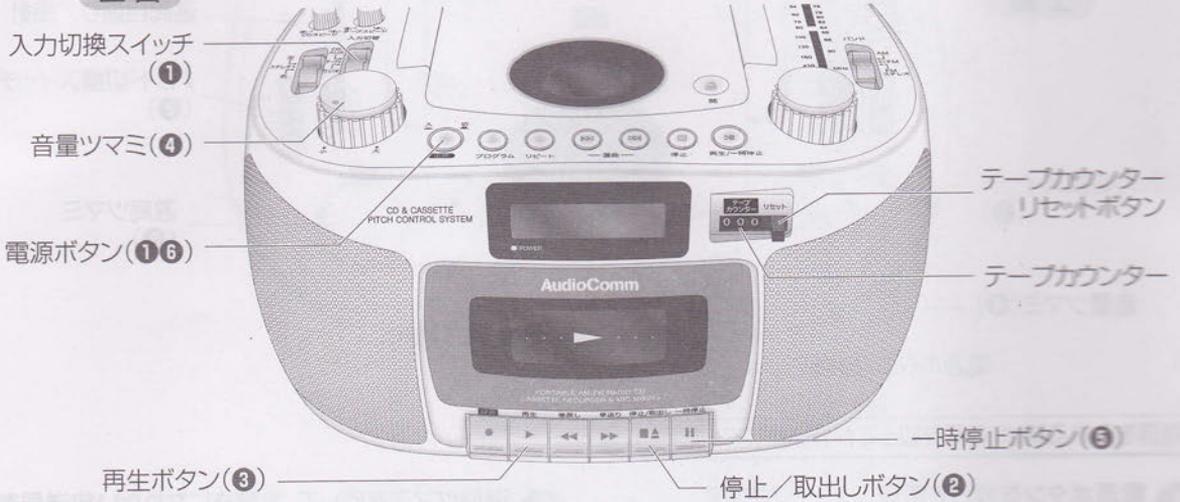
ロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて受信状態が最も良くなるように調節します。



- テレビや蛍光灯の近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機を離れてご使用ください。
- 持ち運び時は、目をついたり危険ですので、FMロッドアンテナを縮めた状態で持ち運んでください。

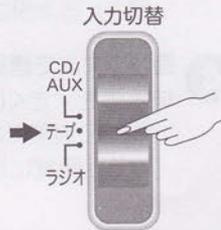
カセットテープを聴く

上面



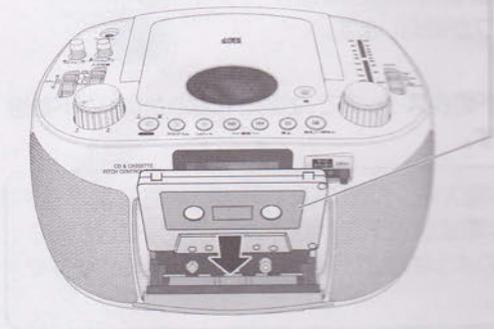
電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切替スイッチをテープに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。



テープが見えるほうを下に、再生面を手前にしてセットしてください。

- カセットの停止/取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットをセットします。
セットしたら、カセットドアを手で閉めます。
※テープが見えるほうを下に、再生面を手前にしてカセットをセットしてください。



テープカウンターのリセットボタンを押して「000」にしておくと、巻戻し/早送りする際の目安が分かりやすくなります。



- 再生ボタンを押すと再生が始まります。
- 音量ツマミで音量を調節します。
※音量を大きくしすぎないようにご注意ください。周囲の迷惑になるだけでなく、大きな音で聴き続けると聴覚に悪い影響を及ぼすおそれがあります。
- 再生を一時停止する時は、一時停止ボタンを押します
※もう一度押すと再生を再開します。
- 再生を停止する時は停止/取出しボタンを押します。テープを終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります(電源ランプが消灯します)。

④巻戻し ②停止/取出し



- 再生するには再生ボタンを押します。
- 再生を止めるには停止/取り出しボタンを押します。
- 再生を一時停止するには、一時停止ボタンを押します。もう一度押すと再生を再開します。
- テープを早送り、巻戻しするには、早送りボタン、または巻戻しボタンを押します。

テープ再生スピードの調整について

本機では、テープスピード調整ツマミを使って、カセットテープの再生スピードを調節することができます。

- テープスピード調整ツマミを「速い」の方向に回すと、テンポが速くなり、音の高低も高くなります。
- テープスピード調整ツマミを「遅い」の方向に回すと、テンポがゆっくりになり、音の高低が低くなります。

テンポ=ゆっくり
音の高低=低



テンポ=速い
音の高低=高

- 外国語テープ教材などの聞き取り練習に便利なほか、カラオケ時のキーコントロールにも使用できます。
- 通常は「標準」でご使用ください。また、テープ再生を終了する時は、必ず「標準」に戻してください。

音声出力切換スイッチについて



本機では、音声出力切換スイッチを使って、テープの音声出力を切り換えることができます。音声多重テープを再生時に、左右いずれかの音声のみを聴くことができます。

※例えば右チャンネルにはカラオケのみを、左チャンネルにはボーカルとカラオケが録音された音声多重テープの場合は、音声出力切換スイッチを「右」に合わせることで、カラオケのみの再生を楽しむことができます。

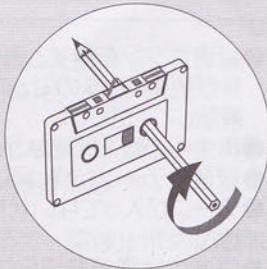
※通常のテープ再生時は「ステレオ」に合わせてください。

セミオートストップ機能

カセットの再生／録音時にテープが最後まで行くと、自動的に操作ボタンが上がり動作終了します。ただし、早送り／巻戻しでは自動的に動作終了しません。故障の原因となることがありますので、早送り／巻戻し時は必ず停止ボタンで動作を終了させてください。

カセットテープの取扱い

鉛筆などを使って使用前にテープのたるみを取り除いてください。たるんでいるテープを使うと、テープが機械に巻き込まれて使えなくなることがあります。



ご使用になれるテープ

本機でお使いになれるテープはノーマルテープです。メタルテープやクロムテープは性能が十分発揮できません。また、エンドレステープはご使用になれません。

90分を超えるテープについて

90分を超える長時間テープの使用は避けてください。他のカセットテープに比べて非常に薄いため、のびたり機械に巻き込まれやすくなります。

カセットテープを聴き終えたら

使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、カセットテープを取り出した後はカセットドアを必ず閉めてください。

CDからカセットテープに録音する

上面

停止ボタン(5)

入力切換スイッチ(1)

CDドア開閉操作部(2)

再生/一時停止ボタン(3,4)

電源ボタン(1,6)

選曲ボタン(⏮/⏭)(3)

録音ボタン(4)

停止/取出しボタン(5)

電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 1** 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切換スイッチをCD / AUXに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。



- 2** CDとカセットテープをそれぞれセットします。
※CDのセット方法はP.9を参照してください。また、カセットテープはP.13を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください
※CDの曲をすべて録音する場合は、ステップ4に進んでください。

- 3** 録音したい曲を選曲ボタン(⏮/⏭)ボタンで選び、再生/一時停止ボタンを2回押します。
※CDの再生を一時停止状態にします。

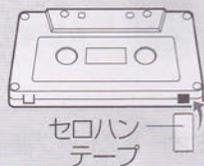


- 4** カセットの録音ボタンを押し、すぐにCDの再生/一時停止ボタンを押します
=録音開始

- 5** 録音を終える時はカセットの停止/取出しボタンを押し、その後CDの停止ボタンを押します。

- 6** 終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります。
※電源ランプが消灯します。

- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。
- テープ両端のリード部分(透明部)は録音できません。セットする前に送っておいてください。
- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

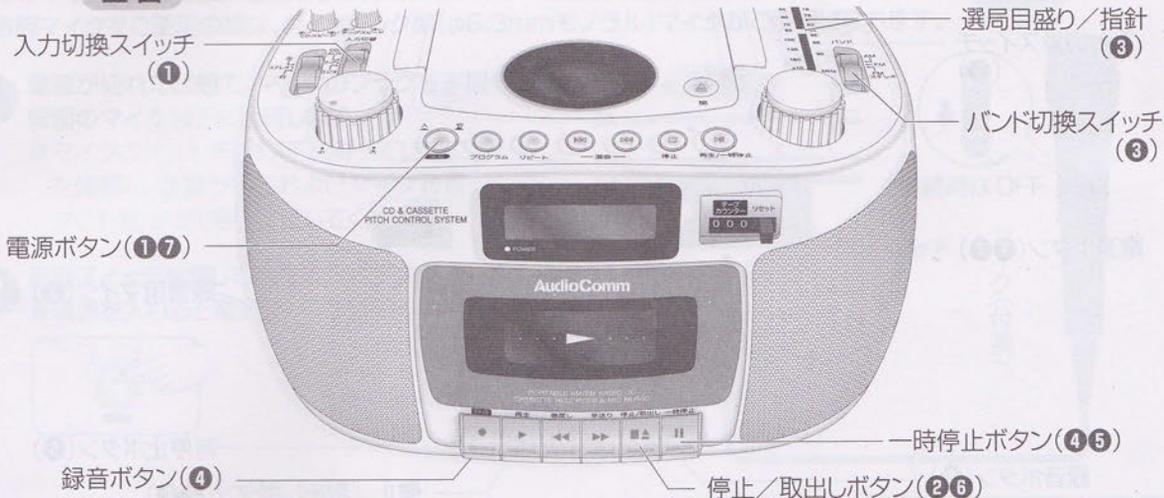


- 録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がり録音が始まりますので、すぐにCDの一時停止状態を解除してください。
- 再生中の音を聞きながら、録音できます。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。またテープスピードもテープスピード調整ツマミの設定に関係なく一定になります。
- CDスピード調整ツマミでCDの再生スピードを調整すると、そのまま録音されますのでご注意ください(聴いているスピードで録音されます)。
- 大切な録音をする時は、途中での電池切れを防ぐため、AC電源での録音をお勧めします。

使い終わった後は、必ず本機からCDとカセットテープを取り出してそれぞれのケースに保管してください。CDドアとカセットドアも必ず閉めてください。

ラジオ放送をカセットテープに録音する

上面



電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切換スイッチをラジオに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。
- 入力切替
- 2 カセットテープをセットします。
※P.13を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください。

- 3 録音したい放送局を受信します。
※P.12を参照しながら操作してください。
- 4 カセットの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します=録音待機
- 5 録音を開始したいところで一時停止ボタンを押し、一時停止を解除します=録音開始
- 6 録音を停止する時は停止/取出しボタンを押します。
- 7 終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります。
※電源ランプが消灯します。

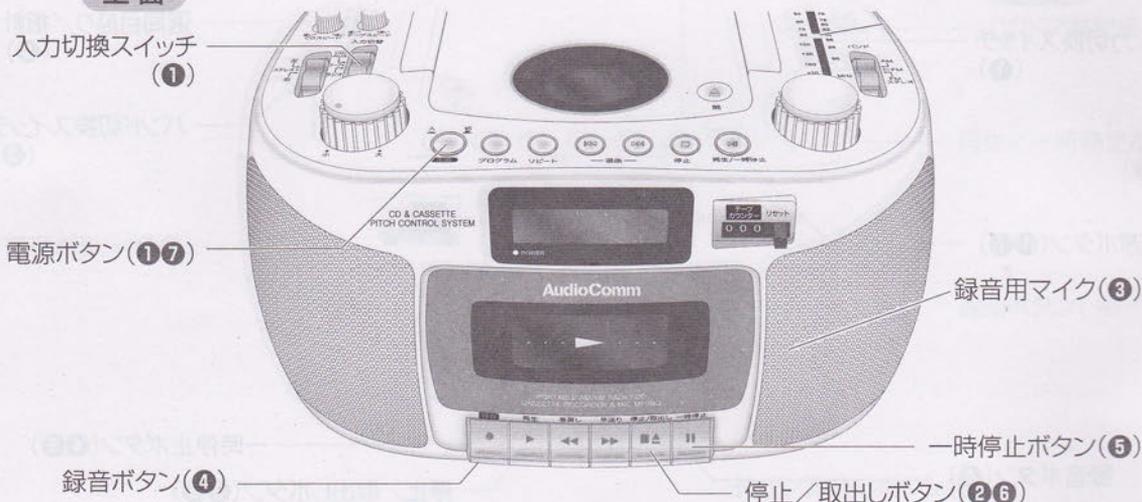
- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。
 - テープ両端のリード部分(透明部)は録音できません。セットする前に送っておいってください。
 - テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。
-
- セロハンテープ

- ラジオを聴きながら、録音できます。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。またテープスピードもテープスピード調整ツマミの設定に関係なく一定になります。
- テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
- 大切な録音をする時は、途中での電池切れを防ぐため、AC電源での録音をお勧めします。

使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。カセットドアも必ず閉めてください。

周囲の音をカセットテープに録音する

上面

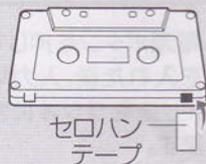


電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切換スイッチをテープに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。
- 2 カセットテープをセットします。
※P.13を参照しながら、録音する面を手前にしてセットしてください。
- 3 録音したい音源に本機を近づけます。
※本機右スピーカー内に録音用マイクが内蔵されていますので、そこを音源に向けてください。
- 4 録音ボタンを押します。
※再生ボタンもいっしょに押し下がり、録音が始まります。
- 5 録音を一時停止する時は、一時停止ボタンを押します。
※もう一度押すと録音を再開します。
- 6 録音を停止する時は停止/取出しボタンを押します。
- 7 終了する時は、電源ボタンを押して電源を切ります。
※電源ランプが消灯します。



- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。
- テープ両端のリード部分(透明部)は録音できません。セットする前に送っておいてください。
- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。



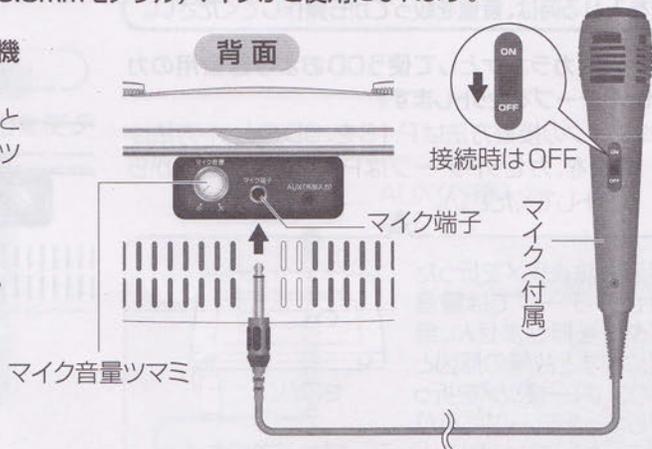
- 事前に試し録りをして、録音レベルを確かめることをお勧めします。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ツマミを操作しても録音には影響がありません。またテープスピードもテープスピード調整ツマミの設定に関係なく一定になります。
- テープが入っていない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
- 大切な録音をする時は、途中での電池切れを防ぐため、AC電源での録音をお勧めします。

使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出してケースに保管してください。カセットドアも必ず閉めてください。

マイクを使う

付属のマイクを使って拡声装置として利用したり、CDなどと組み合わせてカラオケを楽しんだりすることができます。
 ※市販マイクをご使用の際は、ダイナミック型(φ6.3mmモノラル)マイクがご使用になれます。

- 1 電源が切れた状態で、マイクのプラグを本機背面のマイク端子に接続します。
 ※マイクのスイッチがOFFになっていることを確認し、音量つまみおよびマイク音量つまみも絞った状態で接続してください。



- 2 電源スイッチを押して電源を入れます。
 ※電源を入れると電源ランプが点灯します。



マイク単独で使う場合

- 3 入力切換スイッチをテープに合わせ、マイクのスイッチをONにします。
 ※入力切換スイッチの位置に関係なく、マイク音声は出力されますが、マイク単独使用時は、ラジオやCDとの混合出力を防ぐため、「テープ」位置での使用をおすすめします。



- 4 音量つまみおよびマイク音量つまみを操作して、マイクの音量を調節します。

いずれかの音量つまみが最小になっていると、音声は出力されません。実際に声を出して大きさを確認しながら調節してください。

- 5 終了する時は音量つまみおよびマイク音量つまみを操作して音量を絞り、マイクのスイッチをOFFにした後、電源ボタンを押して電源を切ります。
 ※電源ランプが消灯します。

カラオケを楽しむ場合

- 3 入力切換スイッチをカラオケ音源に応じてテープまたはCD / AUXに合わせ、マイクのスイッチをONにします。



- 4 テープまたはCDを再生します。
 ※カラオケ用のCDを再生する場合はP.9~11を、テープを再生する場合はP.13~14を参照して操作してください。

- 5 音量つまみおよびマイク音量つまみを操作して、マイクの音量を調節します。

- 最初に音量つまみを使ってカラオケの音量を調節し、その後、マイク音量つまみでマイクの音量を調節してください。
- 歌いはじめる前にテストを行い、カラオケ・マイク双方のバランスを確かめることをお勧めします。

- 6 終了する時は音量つまみおよびマイク音量つまみを操作して音量を絞り、マイクのスイッチをOFFにした後、電源ボタンを押して電源を切ります。
 ※電源ランプが消灯します。

大きな音量の時にマイクを本機に向けると、ハウリング(キーンという甲高いノイズ)を起こしますので、十分にご注意ください。

マイクを使ってカラオケと歌を録音する

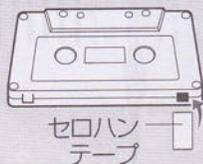
CDのカラオケとマイクによる歌を、カセットテープに録音することができます。

電源を入れる時は、音量を絞ってから操作してください。

1 マイク、カラオケとして使うCDおよび録音用のカセットテープをセットします。

※マイクの接続方法はP.18を、CDのセット方法はP.9を、カセットテープはP.13を参照しながらセットしてください。

- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。
- テープ両端のリード部分(透明部)は録音できません。セットする前に送っておいってください。
- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。



2 電源ボタンを押して電源を入れた後、入力切換スイッチをCD / AUXに合わせます。

※電源を入れると電源ランプが点灯します。



3 カラオケとして使う曲を選曲ボタン(◀/▶)ボタンで選び、再生/一時停止ボタンを2回押します。

※CDの再生を一時停止状態にします。



4 カセットの録音ボタンを押し、すぐにCDの再生/一時停止ボタンを押します = 録音開始

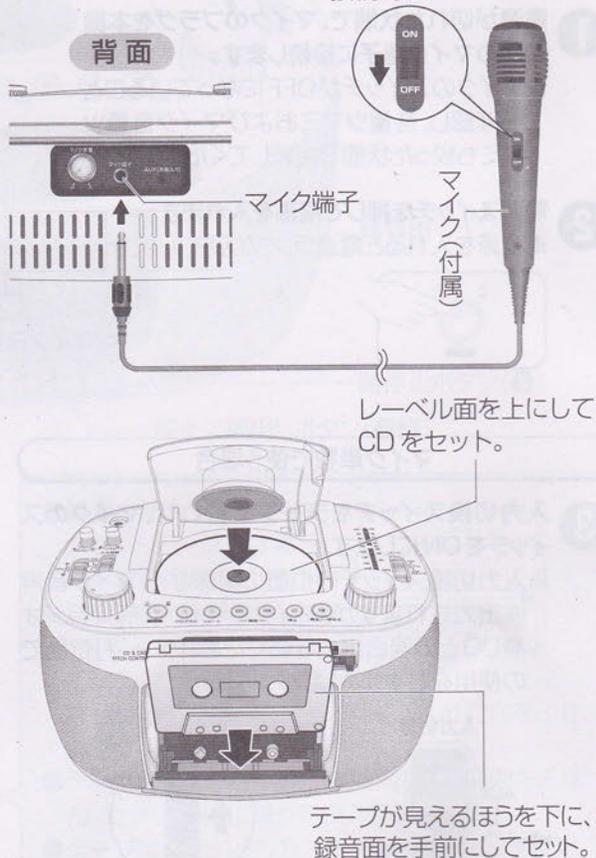
※マイクに向かい、カラオケに合わせて歌ってください。

5 録音を終える時はカセットの停止/取出しボタンを押し、その後CDの停止ボタンを押します。

6 終了する時は電源ボタンを押して、電源を切ります。

※電源ランプが消灯します。

接続時はOFF



- 録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がり録音が始まりますので、すぐにCDの一時停止状態を解除してください。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
- CD音の録音レベルは自動調節されますが、マイク音声の録音レベルはマイク音量ツマミの設定が反映されます。事前に試し録音を行い、バランスを調整することをお勧めします。
- CDスピード調整ツマミでCDの再生スピードを調整すると、自分の声の音域に合わせてキーを調節できます。
- 大切な録音をする時は、途中での電池切れを防ぐため、AC電源での録音をお勧めします。

使い終わった後は、必ず本機からCDとカセットテープを取り出してそれぞれのケースに保管してください。CDドアとカセットドアも必ず閉めてください。

外部機器を接続してスピーカーとして使う

本機背面のAUX(外部入力)端子と外部機器を、φ3.5mmステレオミニプラグコード(別売)で接続して、ポータブルCDプレーヤーや携帯音楽プレーヤーなどの音楽を楽しむことができます。

接続時は本機と外部機器の電源を切ってください。

1 φ3.5mmステレオミニプラグコード(別売)を使って、図のように本機と外部機器を接続します。

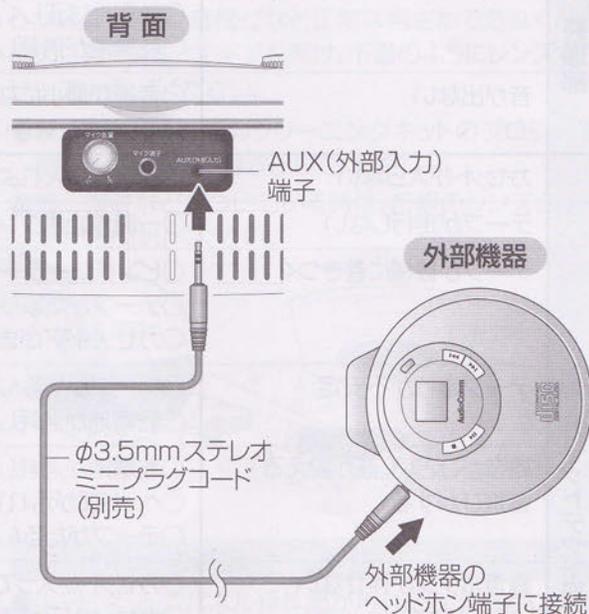
2 本機および外部機器の電源を入れ、入力切換スイッチをCD / AUXに合わせます。
※電源を入れると電源ランプが点灯します。



3 外部機器側で再生等の操作をします。

音量の調節は、本機および外部機器双方で可能ですが、本機側で音量を上げすぎると、接続解除後に電源を入れた時、突然大きな音が出る場合がありますので、十分ご注意ください。

4 終了する時は、本機および外部機器の電源を切り、接続を解除します。
※電源を切ると電源ランプが消灯します。



外部機器の音楽等を再生しながら、本機のカセットテープに録音できます。カセットテープをセット後、入力切換スイッチを「CD / AUX」に合わせて、録音操作をしてください(P.15 参照)。

主な仕様

受信周波数	FM : 76~90MHz AM : 530~1605kHz
実用最大出力	1.2W+1.2W(RMS)
消費電力	16W
出力端子	ヘッドホン端子…φ3.5mmステレオミニジャック
入力端子	AUX(外部入力)端子…φ3.5mmステレオミニジャック マイク端子…φ6.3mmモノラルジャック(600Ω)
電 源	AC 100V 50 / 60Hz DC 12V(単2形乾電池×8個 別売)
外形寸法	幅220×高さ170×奥行300mm(突起物含まず)
質 量	約2245g(乾電池含まず)
乾電池での連続使用時間の目安 アルカリ乾電池使用 (音量 : 中程度)	ラジオ受信時 約30時間 テープ再生時 約10時間 CD再生時 約5時間
付属品	マイク(コード長 : 約3m)、電源コード、取扱説明書(保証書)

※乾電池での連続使用時間の目安は、乾電池の種類や使用状況によって異なります。
※本製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。また本取扱説明書で使用する図版は、実際の機種と一部外観が異なっている場合があります。

故障かなと思ったら

	症 状	チェック項目
共通部	電源が入らない	○電源コードが外れて(ゆるんで)いませんか。 ○乾電池は正しく入っていますか。 ○乾電池が消耗していませんか。
	音が出ない	○音量が最小になっていませんか。 ○ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。
カセット/レッキ部	カセットが入らない	○逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	○一時停止ボタンを押していませんか。
	テープが機械に巻きつく	○ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。 ○テープがたるんでいませんか。 ○カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	○テープがたるんでいませんか。 ○乾電池が消耗していませんか。
	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	○乾電池が消耗していませんか。 ○ヘッド部が汚れていませんか。 ○テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	○カセットが入っていますか。 ○カセットドアがきちんと閉まっていますか。 ○カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
	録音できない	○ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	○消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	○入力切換スイッチが別のファンクションになっていませんか。
再生スピードがおかしい	○テープスピード調整ツマミが標準の位置にありますか。	
CD部	CDの再生が始まらない	○CDが裏返しに入っていないですか。 ○CDがひどく汚れていませんか。 ○規格外のディスクが入っていないですか。 ○レンズがひどく汚れていませんか。 ○CDドアがしっかりと閉まっていますか。 ○入力切換スイッチが別のファンクションになっていませんか。
	CDの音が出ない	○一時停止状態になっていませんか。
	CDの音が飛び	○結露状態になっていませんか。 ○レンズがひどく汚れていませんか。 ○強い振動を与えていませんか。 ○CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
	再生スピードがおかしい	○CDスピード調整ツマミが標準の位置にありますか。
ラジオ部	ラジオに雑音が入る	○近くで携帯電話を使用していませんか。 ○テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。 また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機をテレビから離してください。
その他	マイクの音が出ない	○マイク音量ツマミが最小になっていませんか。 ○マイクのプラグがマイク端子にしっかり接続されていますか。 ○ヘッドホン端子にヘッドホンが接続されていませんか。

お手入れのしかた

※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、電源が入らないようにしておいてください。

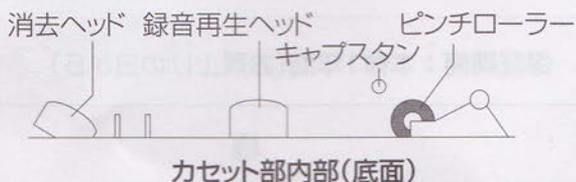
ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ホコリなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると

- 音質が悪い
 - 音が小さい
 - 録音できない
 - 前の音が消えないで残る などの症状が出ます。
- 定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。



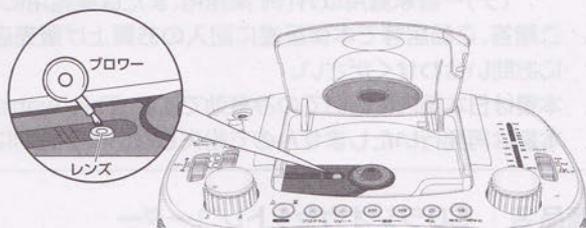
ヘッドの消磁を行うには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになる時は、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

CDプレーヤーのレンズの清掃

レンズの汚れは、音飛びなど正常な再生ができなくなる原因になります。CDドアを開け、下図のようにレンズをクリーニングしてください。

- ホコリなどは市販のクリーニングキットのプロワーを使って、ゴミなどをはき出してください。
- 万一指紋などが付いている時は、市販のレンズクリーナーをお使いください。



キャビネットの清掃

- キャビネットやパネル操作面が汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい時には、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後に乾拭きをしてください。
- 電源コードのプラグにホコリがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。
- シンナーやベンジン、アルコールなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

- 調子が悪いときは
修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。
- 保証期間中は
保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間が過ぎた場合は
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間中でも次の場合には有料修理となります。
 - (イ)使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
 - (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
 - (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
 - (ニ)消耗または摩耗した部品、付属品の交換
 - (ホ)本書のご提示がない場合
 - (ヘ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合
(但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
 - (ト)本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
 - (チ)一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	CDラジオカセットレコーダー			★お買上日：	年	月	日
型番	RCD-P418K-S	品番	07-6418	保証期間：本体1年間(お買上げの日から)			
お客様	★お名前			様			
	★ご住所 〒			—			
				電話	()		
修理メモ							
販売店	★住所 店名 電話						
				(印)			

(注)★印欄に記入の無い場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- ※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<http://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは **お客様相談室**へ
●通話料無料 ●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735
電話受付 平日 9:00~17:30 土曜 9:00~17:00
日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は **修理ご相談センター**へ
電話受付 **048-992-3970** 平日 9:00~17:00
土・日・祝日及び年末年始は除きます

07-6418A